

第47回佐賀県人権・同和教育研究大会

分科会 特集



総参加者数が約300名の盛会となった第1分科会
＝焔の博記念堂文化ホール

第1分科会
【人権啓発】
焔の博記念堂文化ホール



唐津市からの報告

10月20日(金)に、伊万里市・有田町の4会場で「今、そしてこれからの人権教育・啓発・まちづくりを伊万里・有田の地から」を大会テーマに、第47回佐賀県人権・同和教育研究大会分科会を開催しました。県内各地から、社会教育・学校教育関係者をはじめ千名を超える参加者が5つの分科会に分かれ、レポート報告をもとに、日頃の実践を交流しました。

○行動につながる人権・同和教育、啓発を考える

西村 正久さん(鹿島市人権・同対策課兼生涯学習課)

藤田 直美さん(有田町教育委員会)

今村 安伊子さん(有田女性まつり実行委員会)

○唐津市における人権・同和教育、啓発の取組と課題

一條 和己さん(唐津市教育委員会)

鹿島市と唐津市からは、多くの人に人権の大切さを知ってもらい、人権の意義を学んでほしいという願いのもと、いろいろな取組の紹介や実際に研修会で使われている具体的な資料を使った報告がありました。また有田町からは、人と人とが本音で語り合い、お互いを認め合うことから繋がっていき、女性フェスタが定着し認知されていったこと。女性フェスタを通して人と人と繋がっていくことは人権啓発に有効な手立てとなったという報告がありました。

フロアーからの発言も多く、研修会への参加者の固定化や高齢化の傾向を変えるための取組の情報交換もできました。

佐同教だより

佐賀県人権・同和教育研究協議会

住所 佐賀市大和町大字川上 佐賀県教育センター 研究調査棟内

TEL 0952(62)6434 FAX 0952(62)6435

今、そしてこれからの人権教育・啓発・人権のまちづくりを 伊万里・有田地区で研究大会分科会を開催

第2分科会
【環境づくり】
伊万里市民センター



○つながりを意識した集団づくり

山下 健太さん(小城市立晴田小学校)

○外国にルーツをもつ子どもの日本語教育

武藤 典子さん
(帰国子女対応特別非常勤講師)

○定時制課程で学ぶ高校生の実情について

城島 貞実さん
(佐賀県立佐賀商業高等学校定時制課程)

3本の報告があり、小学校での学級運営の視点、外国にルーツをもつ子どもへの日本語教育の視点、高校の定時制課程の視点からの、子どもたちの教育および成長のための環境づくりに関する興味深い内容でした。多くの参加舎にとっては、日常の教育活動の中ではあまり経験のない、新しい情報が多く提示されたり、若い参加者からも積極的な発言があったり、討議課題を中心に熱心な討議がなされました。

なお、伊万里市民センターでは、協賛団体による物品販売や展示が行われました。

第3分科会
【人間関係づくり】
伊万里市民会館



3本の報告の前に、アイスブレイキングを行い、雰囲気ながこみ、意見が出やすくなりました。

○思いやりの心を育み、子ども同士がつながる学校をめざして
古賀 義彦さん(多久市立東原岸舎西溪校)

○「だって 友だちだから」

田中 真葉さん(大町町立大町ひじり学園)

○自分と他者を大事にする人間関係づくりをめざして
仁部 朝子さん(唐津市立打上小学校)

古賀さんの異学年交流を通して子どもの活躍の場を保障し、子ども同士や小中教職員同士が繋がっていった報告。新採2年目の田中さんのたゆまぬ努力、子どもたちとの距離を縮めるためのさまざまな学級での取組、学校全体での支援体制、新採を見守る教職員集団の連携が素晴らしかった報告。仁部さんが人権・同和教育の全体・年間計画の見直しをきっかけに、教職員がそれぞれの立場で実践を行っていったことが「化学変化」を起こし、子どもたちの変容に繋がっていった報告。

3本の報告からは、「学級の子どもたちのトラブルをどう学びに変えるか」「人権・同和教育が教育の根本であること」「教職員の連携の大切さ」について、学びを深めることができました。

第4分科会
【学習活動づくり】
国見台公園体育館



付箋を使ったグループでの協議は、さまざまな立場の参加者の方々といろいろな視点からの意見交流ができて、とても好評でした。

○人権課題を自分ごととして捉えさせる
人権教育カリキュラムの実践

山崎 伸二さん(伊万里市立黒川小学校)

○三根中学校の人権・同和教育に関わる取組と課題

田中 達也さん(みやき町立三根中学校)

○感動は人の心を動かす、出会いは人の人生を動かす
阿世賀 砂織さん(佐賀市立城西中学校)

中学校から2本、小学校から1本の報告がありました。さまざまな人権課題がある中、差別解消推進に関する法律、とりわけ「部落差別解消推進法」の施行を受け、これからの「学習活動づくり」「部落問題学習」を、どのように創っていったらよいかなど、参加者の校種や職種を越えて、活発な討議が続きました。また、付箋紙を活用したグループ協議を行ったことで、さまざまな視点から参加者同士の意見交流ができました。

さらに、「部落問題学習資料」「部落差別解消推進法」「文科省とりまとめ」「ハンセン病学習資料」を配付したことで、分科会の学びがより深まりました。

第5分科会

【人権のまちづくり】

焱の博記念堂コンベンションホール

○一人ひとりの多様性が認められる
社会の実現をめざして

山下 雄司さん

(株)サガプリンティング

○地域の子どもは、私の子ども

福浦 恵理子さん

(異世代交流スペース Gomodo)

○差別の現実に学ぶ

小宮 晴樹さん

(部落解放同盟佐賀県連合会)

はじめに、佐
同教から「色覚
をどう考えるか

「と題して、色
覚特性について私たち大人が
正しい知識をもつことが重要
であることを示しました。

山下さんは企業の立場か
ら、さまざまな色の見え方を
する人たちに配慮して、すべ
ての人にきちんと情報が伝わ
るように、メディアユニバーサ
ルデザインの視点を大切にさ
れている報告がなされまし
た。福浦さんは、誰かに悩み
を語り、身近な人の悩みを聴
くことで、お互いを知り、社
会的「孤立」を防ぐことが大切
だと語られました。小宮さん
は、自身の体験を通して、差
別の現実学ぶことの大切
さ、ふるさとに誇りをもつこ
との大切さを切々と訴えられ
ました。



3本の報告のあとには、報告者全員でのシンポジウムが開催されました。

2017年度

人権保育研究集会

10月29日(日) 唐津市文化体育館



実践報告をする吉岡美和さん(右)

特別講演の室原由美さん(左)



10月29日の日曜日に、人権保育研究集会を唐津市文化体育館にて開催しました。

今年度は、唐津地区での初めての開催でしたが、保育士や幼稚園教諭、学校教職員を中心に100名を超える参加がありました。

伊万里市立大川保育園の吉岡美和さんからは、「人をいたわる心・やさしい心・強い心」を育てるために」と題して実践報告がありました。集団の中でうまく人とかわれない子を中心とした取組の報告でした。言葉の大切さを子どもたちに立ち止まって考えさせることや、自己有用感を持たせる保育の大切さをみんなで共有しました。

特別講演では、熊本県小国町立北里保育園の室原由美さんによる「たくさんのつぶやきをうけとめて」と題した講演がありました。子どもたちがふともらすつぶやきを書きとめて、月に一度保護者向けに発信したこと。それがもとで、親が子どもへの声に耳を傾け、親子の繋がりがみられるようになったことなどを話されました。

準備して頂いたつぶやき集を実際に作り、読み進めていく中で、参加者のだれもが「くすつ」と笑い、室原さんの話に涙を流し、とても心に響く話でした。

子どもたちが絵を描くときにも保育士が寄り添い、絵に込めた思いを言葉で書きとめる「保育の言語化」に取り組んでいることも紹介され、参加者の中から自分もやってみようという感想が聞かれました。

最後に、障がいのある孫の誕生のエピソードでは、息子さんの力強い「俺は学んできとつとばい」という言葉に、確かな出会いと確かな知識が大切ということをしつかりと確信したと結ばれました。

佐同教 第1回実践交流会

1月24日(金) 佐賀県青年会館

11月24日、「佐同教・第1回実践交流会」を佐賀県青年会館で開催しました。当日は急な会場変更にも関わらず、175名の参加者がありました。

今回の研修会では、福岡市立箱崎中学校の古賀朗さんに中学校での人権学習・部落問題学習の授業実践を詳しく紹介して頂きました。

古賀さんは、近現代の部落問題学習の実践として、中学校1年生から歴史学習の中に部落史を織り込みながら、他の部落問題学習とも関連させ、3年生の卒業まで計画的・継続的に部落問題に関わる認識を身につけさせることに努めてられました。この日は、その中から3年生での実践を「『解放令』と『水平社』をつなぐ」と題して熱く語って頂きました。



自分自身の反省として、「解放令」から「水平

実践報告をする古賀朗さん
わかりやすく、丁寧な実践に
多くの参加者が感心しまし

社」設立に至るまでの実践の少なさに気づき、これまで通りの授業で「現代の部落解放への思いが本場に子どもたちに理解できるのだろうか」と考え、「解放令」後にどのような経緯があつて、「水平社」設立の「熱」と、「水平社宣言」の輝きに繋がっていったのか、そのことが子どもたちに伝わる授業実践を試みていきました。

中でも、「筑前竹槍一揆」などの地元福岡の教材を活用して「解放令」直後の福岡のようすを身近に捉えさせ、当時の人々の思いを創造させたり、小説「破戒」の内容を取り上げて「水平社」前夜のありようを捉えさせたりして、より実感を伴う部落問題学習にしていきました。

古賀さんは最後に、「『わたし』『あなた』をふくむ『みんな』が学び、変わると、社会が変わる」と結ばれました。

質疑応答の後、「人権学習・部落問題学習を通して、どのように子どもたちをつないでいけばいいのか」、「中学校での取組の前後に、小学校や高等学校・特別支援学校や社会教育では、どのような取組が必要か」などの視点で、グループ協議、全体協議を行い研修を深めていきました。



会場を埋め尽くさんばかりの参加者

◆第69回全国人権・同和教育研究大会

「差別の現実から深く学び、生活を高め未来を保障する教育を確立しよう」を大会のテーマに第69回全国人権・同和教育研究大会が、12月2・3日の2日間、島根県で開催されました。全国から約6000人が参加し、2日は松江市・くにびきメッセにおいて全体会が行われ、栗原代表理事が「部落差別解消推進法」施行後の人権・同和教育の取組について今大会での活発な論議を呼びかけました。次に基調提案があり、続いて島根県人権の石原直子さんが、「先生、私は先生の支えになれていましたか？」とアイさんとの出会いに学んだことと題して特別報告を行いました。また、午後からと3日は出雲市と松江市において学校教育と社会教育の5つの分科会で、101本の報告があり、活発な論議と交流がなされました。

佐賀県からは川橋真奈美さん(晴田小)が、第1分科会(人権確立をめざす教育の創造)で「先生、私ってすごいね」と題して、友だちとの関係にも学習にも自信が持てず、不安を抱えながら過ごしていたAさんが背負っているものを知り、一緒に背負ってほしいという思いで向き合い、友だちと繋がりをつくることにこだわってきた取組を報告しました。また、第2分科会では野口明宏さん(循誘小)、第3分科会では馬場渉さん(有田中)が司会を務めました。

